

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業437社を対象に実施し、404社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成19年4月～6月の実績、平成19年7月～9月の見込み、平成19年10月～12月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成19年6月下旬

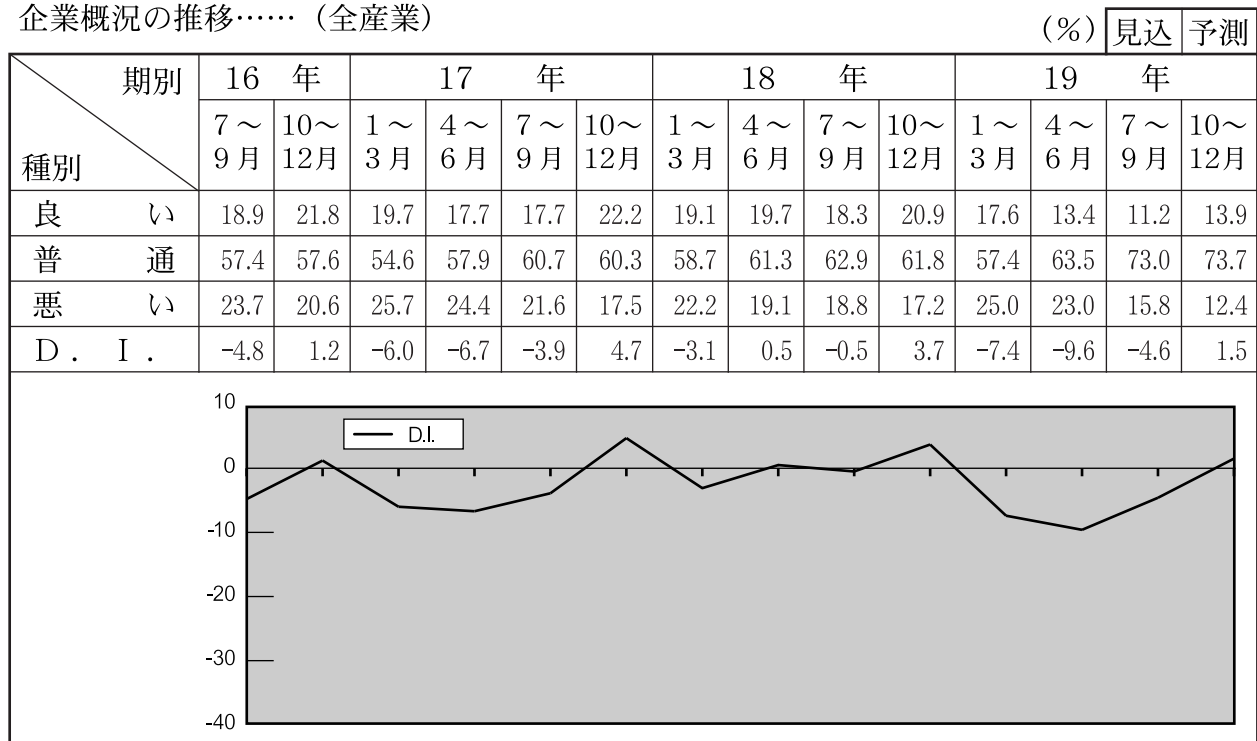
	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	205	191	93.2%
非 製 造 業	232	213	91.8%
計	437	404	92.4%

日銀が7月13日に公表した金融経済月報（基本的見解2007年7月）によると、現状の景気判断について、「わが国の景気は、穏やかに拡大している」とし、先行きについても「景気は穏やかな拡大を続けるとみられる。」としている。

すなわち、「輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加を続けていくとみられる。また、国内民間需要も、高水準の企業収益や雇用者所得の緩やかな増加を背景に、引き続き増加していく可能性が高い。こうした内外需要の増加を反映して、生産も増加基調をたどるとみられる。この間、公共投資は減少基調を続けると考えられる。」として、景気は穏やかな拡大を続けるとしている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

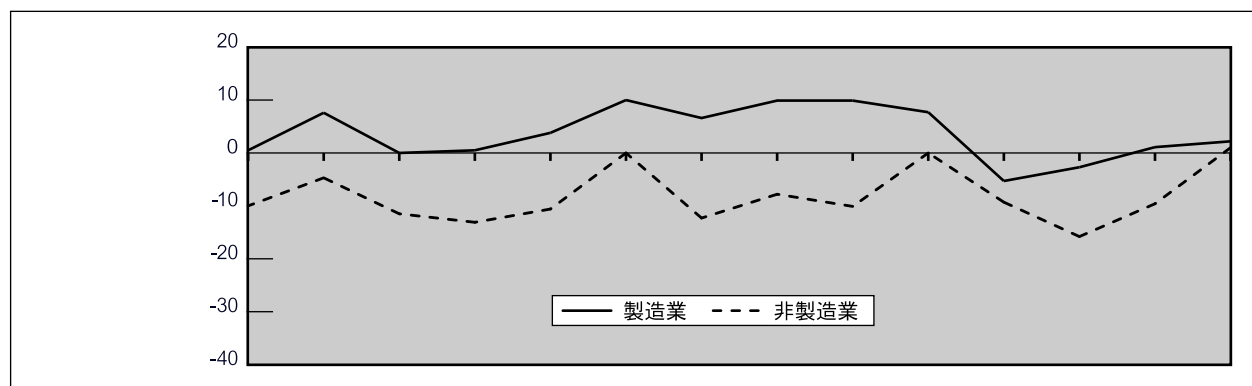


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	19.8	25.4	22.6	22.3	21.5	25.3	23.9	25.7	24.5	22.4	18.1	16.7	14.1	13.4
普	通	60.9	56.9	54.9	56.0	60.8	59.5	58.9	58.6	60.9	62.8	58.5	64.0	73.0	75.3
悪	い	19.3	17.8	22.6	21.8	17.7	15.3	17.3	15.7	14.6	14.8	23.4	19.4	13.0	11.3
D . I .		0.5	7.6	0.0	0.5	3.8	10.0	6.6	9.9	9.9	7.7	-5.3	-2.7	1.1	2.2

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
良	い	18.0	18.5	17.1	13.6	14.4	19.4	14.6	14.3	12.6	19.5	17.1	10.5	8.7	14.4
普	通	54.0	58.3	54.4	59.6	60.6	61.1	58.5	63.6	64.7	61.0	56.5	63.2	73.1	72.2
悪	い	28.0	23.2	28.6	26.8	25.0	19.4	26.9	22.1	22.7	19.5	26.4	26.3	18.3	13.4
D . I .		-10.0	-4.7	-11.5	-13.1	-10.6	0.0	-12.3	-7.8	-10.1	0.0	-9.3	-15.8	-9.6	1.0



- (1) こうした全国の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数 D.I.「良い－悪い」は、19年4～6月期実績は▲9.6と前期比2.2ポイント悪化した。

先行きについて、19年7～9月期のD.I.は、前期比5.0ポイント改善する見込となっているが、ポイントはマイナスであり、前年同期比に比べポイントも低い。

- (2) 業況判断指数D.I.の19年4～6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より2.6ポイント改善となった。非製造業は前期より更に6.5ポイント悪化している。

先行きについてのD.I.は全業種で、改善見込みであるが、非製造業については、まだマイナスポイントの見込みとなっている。

製造業の業況判断指数D.I.は前期に、先行きの19年4～6月期を5.3、7～9月期を8.5と予想していたが、4～6月は▲2.7、7～9月は1.1とポイントは低く、予想より低い状況となった。非製造業の業況判断指数D.I.についても、19年4～6月期は▲15.8でありマイナスが続いている。7～9月の先行きもマイナスの見込となっている。

Ⅱ．売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月
増 加	36.4	36.3	35.8	35.9	36.4	35.4	35.0	35.0	33.8	36.0	31.6	28.5	22.9	23.3
横 ば い	38.5	38.0	38.9	40.0	40.6	40.5	40.9	44.3	44.4	42.1	40.7	41.7	58.1	59.6
減 少	25.1	25.7	25.3	24.1	23.1	24.1	24.1	20.8	21.8	21.9	27.7	29.8	19.1	17.1
D . I .	11.3	10.6	10.5	11.8	13.3	11.2	10.9	14.2	11.9	14.1	3.9	-1.2	3.7	6.2

売上高状況（うち製造業のみ）

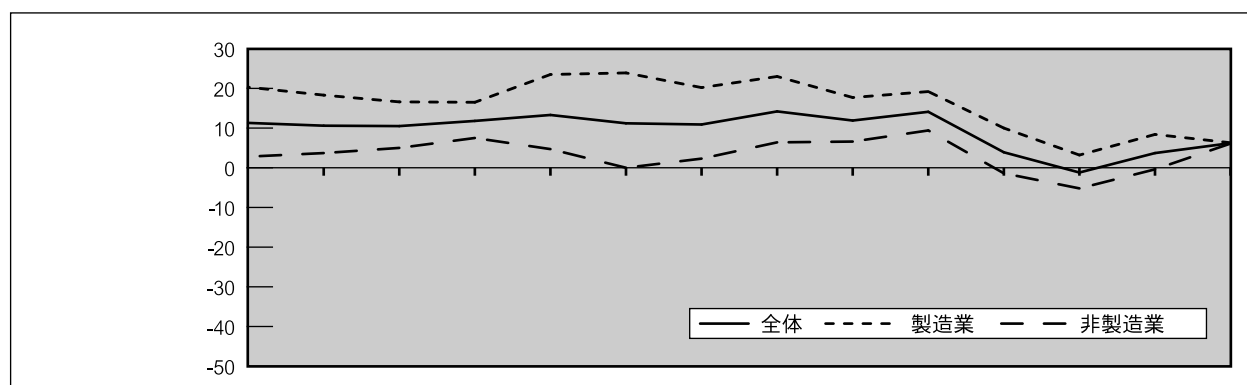
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月
増 加	41.1	41.3	40.9	41.2	43.8	43.1	41.4	39.2	38.0	39.9	34.7	31.6	25.3	22.1
横 ば い	38.2	35.7	34.7	34.0	35.8	37.8	37.4	44.5	41.7	39.4	40.5	40.0	57.9	62.1
減 少	20.8	23.0	24.4	24.7	20.3	19.1	21.2	16.2	20.3	20.7	24.8	28.5	16.9	15.8
D . I .	20.3	18.3	16.6	16.5	23.5	23.9	20.2	23.0	17.7	19.2	10.0	3.2	8.4	6.3

売上高状況（うち非製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月	1～ 3 月	4～ 6 月	7～ 9 月	10～ 12月
増 加	31.9	31.8	31.2	31.0	30.2	28.5	29.1	31.2	29.8	32.4	28.9	25.8	20.7	24.4
横 ば い	38.9	40.1	42.7	45.5	44.2	43.0	44.1	44.0	46.9	44.6	40.8	43.2	58.2	57.3
減 少	29.2	28.1	26.1	23.5	25.6	28.5	26.8	24.8	23.2	23.0	30.3	31.0	21.1	18.3
D . I .	2.8	3.7	5.0	7.5	4.7	0.0	2.3	6.4	6.6	9.4	-1.4	-5.2	-0.4	6.1



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。全産業の売上高状況D.I.は、18年全期間でプラス10の水準を上回っていた。しかし、19年1～3月期から低下してきている。

19年4～6月期見込では▲2.0と見込んでいたが、▲1.2となり悪化ポイントは低かった。7～9月のD.I.は3.7のプラスを見込んでいる。

- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、製造業はプラスで推移しているが、19年からは低下傾向となり、4～9月実績では3.2と前期比6.8ポイント低下した。

非製造業も18年全期間でプラスの水準が続いていたが、19年1～3月期のD.I.はマイナスとなり、4～6月期は前年同期比▲11.3ポイント低下の▲5.2となった。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

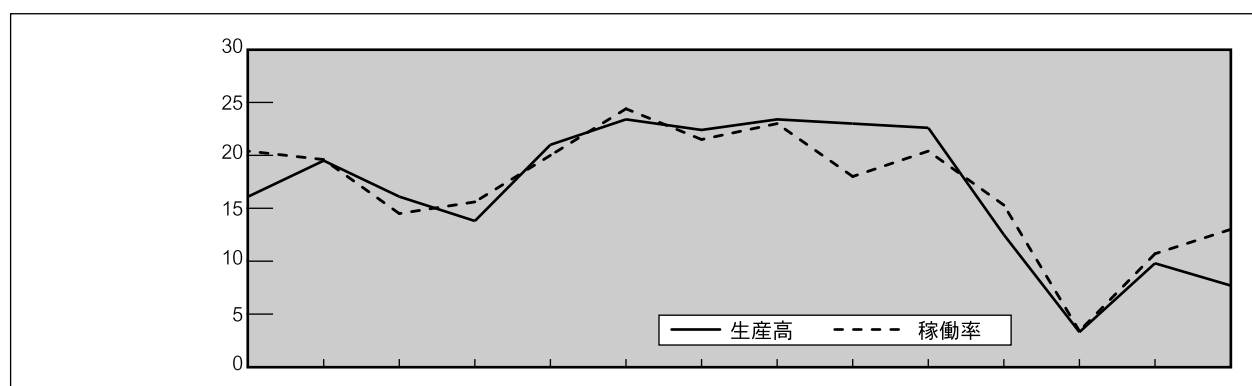
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
20%以上増加	5.5	10.8	9.7	8.5	9.9	12.5	11.7	7.6	10.7	8.4	6.5	4.4	4.4	1.6
20%未満増加	30.7	30.8	30.1	29.6	30.4	28.3	28.1	32.1	28.3	31.6	27.2	26.4	21.9	21.3
横ばい状況	43.7	36.4	36.6	37.6	40.3	41.8	42.9	44.0	44.9	42.6	45.1	41.8	57.4	61.7
20%未満減少	18.1	19.0	20.4	21.7	18.8	15.2	16.8	13.6	14.4	17.4	19.0	24.2	15.3	14.8
20%以上減少	2.0	3.1	3.2	2.6	0.6	2.2	0.5	2.7	1.6	0.0	2.2	3.3	1.1	0.5
D . I .	16.1	19.5	16.1	13.8	21.0	23.4	22.4	23.4	23.0	22.6	12.5	3.3	9.8	7.7

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
上 昇	6.8	11.9	10.6	9.4	11.7	13.3	12.0	8.2	9.3	5.9	5.1	5.6	5.1	2.3
やや上 昇	26.7	25.3	26.8	27.1	23.9	25.6	27.2	28.4	25.1	31.2	28.2	20.8	19.1	22.0
横 ば い	53.4	45.4	39.7	42.7	48.9	46.7	42.9	49.7	49.2	46.2	48.6	50.6	62.4	64.4
やや下 降	11.5	14.4	20.1	17.7	13.3	13.9	15.2	11.5	15.8	16.7	16.9	20.8	11.8	10.2
下 降	1.6	3.1	2.8	3.1	2.2	0.6	2.6	2.2	0.5	0.0	1.1	2.2	1.7	1.1
D . I .	20.4	19.6	14.5	15.6	20.0	24.4	21.5	23.0	18.0	20.4	15.3	3.4	10.7	13.0



- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.「増加－減少」は、18年は全期間で20以上であったが、19年1～3月期は12.5、4～6月は3.3であり、ポイントは低下している。

内容では20%以上増加と回答した企業が減少する傾向が見られる。

- (2) 一方の稼働率状況D.I.からも、18年全期間で稼働率が上昇状況であったが、生産高同様に19年1～3月期は上昇幅はやや落ち着き、横ばいとする企業が増加している。

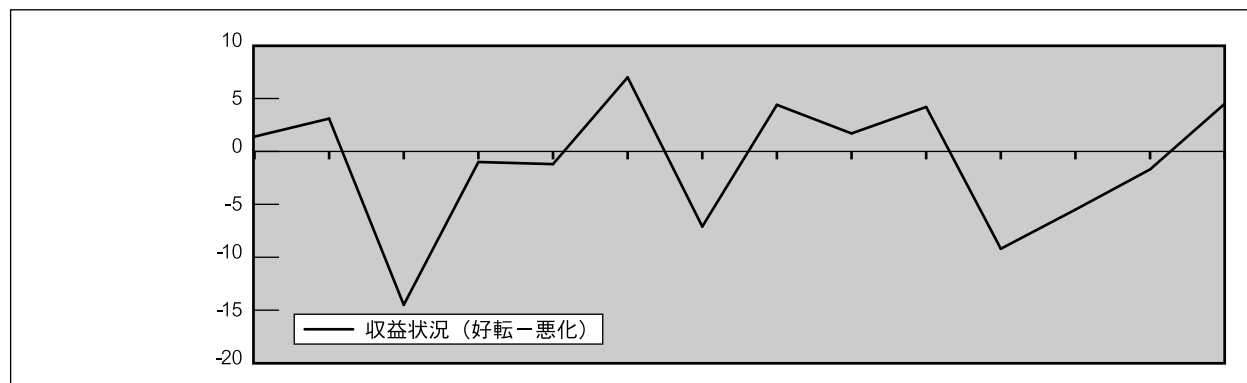
製造業の生産高・稼働率の先行き予測19年7～9月期からは、稼働率については上昇するとの予測となっているが、生産高の10～12月期D.I.見込みは低下予測となっている。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	22.1	22.4	17.7	19.7	21.0	23.5	18.6	23.8	18.4	23.2	19.2	16.6	13.6	15.7
横 ば い	57.1	58.3	50.1	59.6	56.8	60.0	55.6	56.9	64.9	57.7	52.5	61.3	71.0	73.1
悪 化	20.7	19.3	32.2	20.7	22.2	16.5	25.7	19.1	16.7	19.1	28.4	22.1	15.4	11.2
D . I .	1.4	3.1	-14.5	-1.0	-1.2	7.0	-7.1	4.4	1.7	4.2	-9.2	-5.5	-1.7	4.5



好転理由

(%) 見込 予測

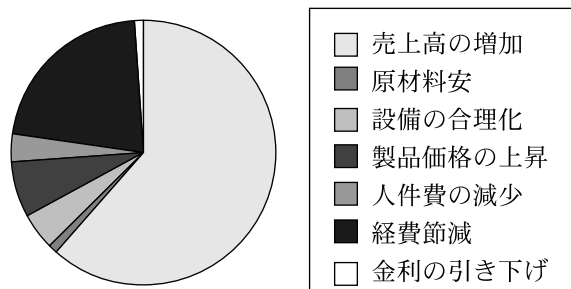
期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の増加	64.0	75.7	74.4	69.7	65.5	69.1	56.3	64.6	61.9	61.5	69.4	61.4	64.5	69.2
原 材 料 安	1.8	1.7	2.3	5.1	2.6	2.7	7.1	2.4	6.2	4.9	3.1	1.1	0.0	1.3
設備の合理化	1.8	2.6	4.7	0.0	2.6	1.8	2.7	2.4	4.1	2.5	4.1	4.5	2.6	1.3
製品価格の上昇	5.3	4.3	5.8	8.1	7.8	4.5	12.5	9.4	9.3	10.7	6.1	6.8	7.9	3.8
人件費の減少	7.9	4.3	3.5	2.0	6.9	5.5	1.8	2.4	6.2	5.7	6.1	3.4	3.9	3.8
経 費 節 減	17.5	11.3	9.3	15.2	14.7	16.4	16.1	17.3	12.4	14.8	11.2	21.6	21.1	20.5
金利の引き下げ	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0

悪化理由

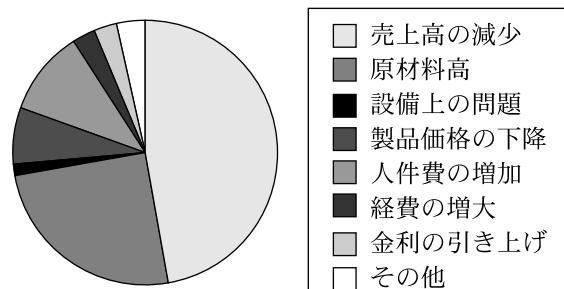
(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
売上高の減少	51.7	57.7	60.0	49.6	48.4	41.8	57.5	38.9	35.4	40.7	55.7	47.2	40.2	39.5
原 材 料 高	19.0	18.3	21.1	19.8	19.8	20.4	19.4	24.1	28.1	20.3	18.4	25.0	34.6	33.3
設備上の問題	0.0	0.0	0.6	1.7	3.2	0.0	0.7	2.8	1.0	2.5	0.0	1.4	0.9	0.0
製品価格の下降	12.9	14.4	7.4	9.1	8.7	7.1	6.7	7.4	10.4	8.5	5.1	6.9	3.7	4.9
経 費 の 増 大	8.6	4.8	7.4	10.7	9.5	11.2	2.2	5.6	15.6	10.2	7.0	10.4	9.3	8.6
人件費の増加	5.2	1.9	1.7	5.8	5.6	8.2	9.7	12.0	4.2	8.5	6.3	2.8	2.8	2.5
金利の引き上げ	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	1.7	2.5	2.8	2.8	6.2
そ の 他	2.6	2.9	1.8	2.5	4.8	11.2	3.0	9.3	4.2	7.6	5.1	3.5	5.6	4.9

好転理由



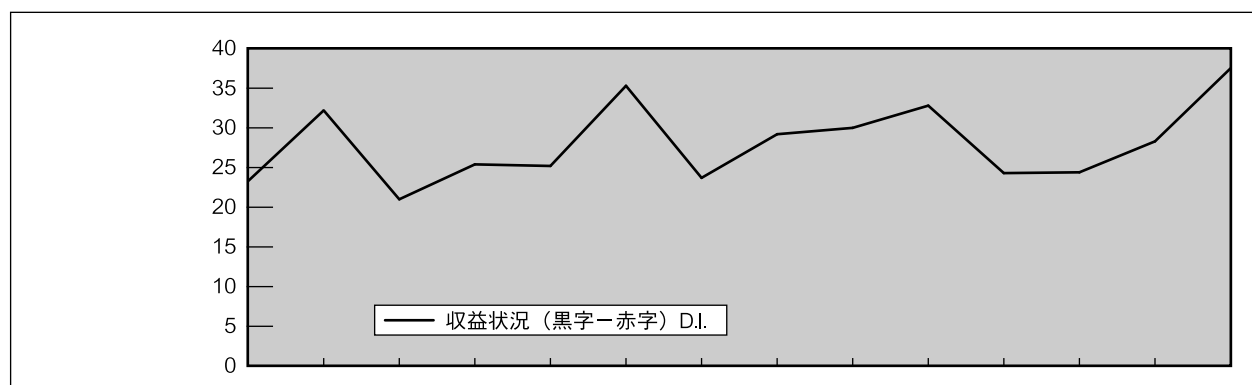
悪化理由



- (1) 4～6月期収益状況「好転－悪化」D.I.は、▲5.5と前期比3.7ポイント悪化した。先行きについては、19年7～9月期D.I.は▲1.7と19年4～6月期実績より3.8ポイントの好転を見込んでいる。19年10～12期予測でもプラス予測となっている。
- (2) 「収益状況が好転した」理由、4～6月期実績は、①売上高の増加、②経費節減となっている。順位は前回と変わっていないが、売上の増加ポイントが低下している。先行きでも、「売上高の増加」が大幅な理由としている。「経費節減」も依然高い理由となっている。
- (3) 「収益状況が悪化した」理由、4～6月期実績は、①売上高の減少、②原材料高となっている。前期とかわらないが、売上高の減少ポイントが低下し、原材料高ポイントが増加している。先行きについても、原材料高を悪化の理由とする企業が増加している。
- 7～9月期は9.6ポイント更に増加している。原油高騰が起因する、素材高・燃料費の増加が感じられる。

収益状況（黒字－償却後赤字）

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年				(%)	見込	予測
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月			
黒 字	44.7	48.2	43.3	44.8	44.1	48.5	44.4	43.8	44.6	48.5	43.5	43.0	40.4	45.3			
収支トントン	34.0	35.8	34.5	35.7	37.0	38.3	34.9	41.6	40.8	35.7	37.3	38.4	47.5	46.8			
償却後赤字	21.4	16.0	22.2	19.5	18.9	13.2	20.7	14.6	14.6	15.8	19.3	18.6	12.1	7.8			
D . I .	23.3	32.2	21.0	25.4	25.2	35.3	23.7	29.2	30.0	32.8	24.3	24.4	28.3	37.5			



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は、18年4～6月期以降改善し、10～12月期は32.8であったが、19年1～3月期は24.3、4～6月期は24.4とやや低下している。例年1～3月期は悪化しており、季節的要因が考えられる。19年4～6月期実績では81.4%の企業が黒字もしくは収支トントンと回答している。先行きでも、80%以上の企業が黒字もしくは収支トントンと回答しており、ポイントも増加している。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

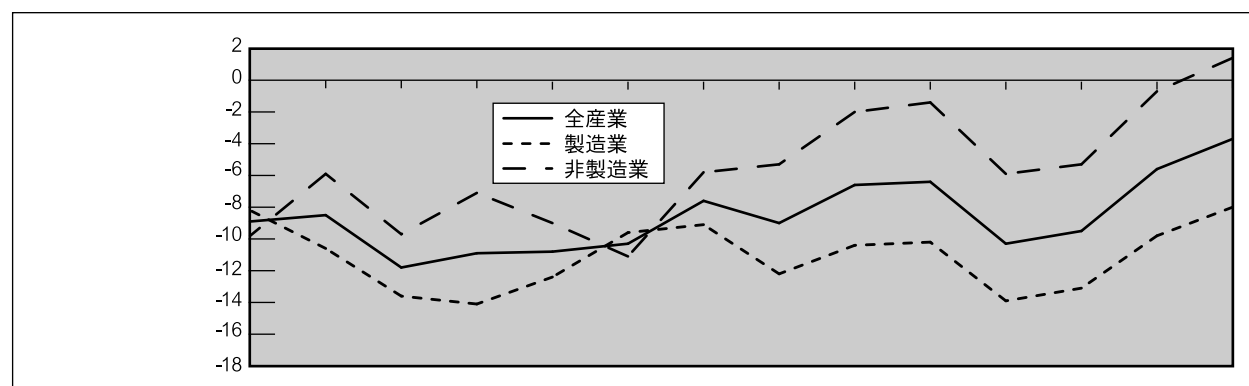
		(%)												見込	予測
期別 種別		16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		2.9	3.5	2.7	4.7	3.6	3.3	3.2	3.6	3.9	3.6	2.4	2.8	2.8	1.9
適 正		85.4	84.5	82.8	79.7	81.9	83.0	86.0	83.8	85.5	86.4	84.9	84.9	88.8	92.6
過 剰		11.7	12.0	14.5	15.6	14.5	13.6	10.8	12.6	10.6	10.0	12.7	12.3	8.4	5.6
D . I .		-8.9	-8.5	-11.8	-10.9	-10.8	-10.3	-7.6	-9.0	-6.6	-6.4	-10.3	-9.5	-5.6	-3.7

製品在庫水準（うち製造業のみ）

		(%)												見込	予測
期別 種別		16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		3.6	2.6	2.7	3.2	4.0	4.5	4.3	3.9	3.3	3.7	1.1	2.3	1.7	0.6
適 正		84.7	84.1	81.0	79.5	79.7	81.4	82.3	80.1	83.0	82.4	83.9	82.3	86.8	90.9
過 剰		11.7	13.2	16.3	17.3	16.4	14.1	13.4	16.0	13.7	13.9	15.0	15.4	11.5	8.6
D . I .		-8.2	-10.6	-13.6	-14.1	-12.4	-9.6	-9.1	-12.2	-10.4	-10.2	-13.9	-13.1	-9.8	-8.0

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

		(%)												見込	予測
期別 種別		16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
不 足		2.0	4.6	2.6	6.5	3.2	2.0	1.9	3.3	4.7	3.5	4.0	3.3	4.1	3.4
適 正		86.3	84.9	85.1	80.0	84.5	85.0	90.4	88.2	88.6	91.6	86.1	88.0	91.2	94.6
過 剰		11.8	10.5	12.3	13.5	12.3	13.1	7.7	8.6	6.7	4.9	9.9	8.7	4.8	2.0
D . I .		-9.8	-5.9	-9.7	-7.1	-9.0	-11.1	-5.8	-5.3	-2.0	-1.4	-5.9	-5.3	-0.7	1.4



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、19年4～6月期は▲9.5となった。18年に入り製品在庫の過剰感は改善し、全期間を通して17年より改善していたが19年1～3月期では後退していたが、4～6月期より再び改善している。非製造業については、10～12月期予想ではD.I.はプラスとなっている。
- (2) 19年4～6月期、業種別では、木材業・高岡銅器・出版印刷紙加工に在庫の過剰感が見られる。先行きでは、高岡銅器において在庫過剰感が改善される見込となっている。機械工具販売では、在庫不足となっている。先行きについても在庫不足を予想している。

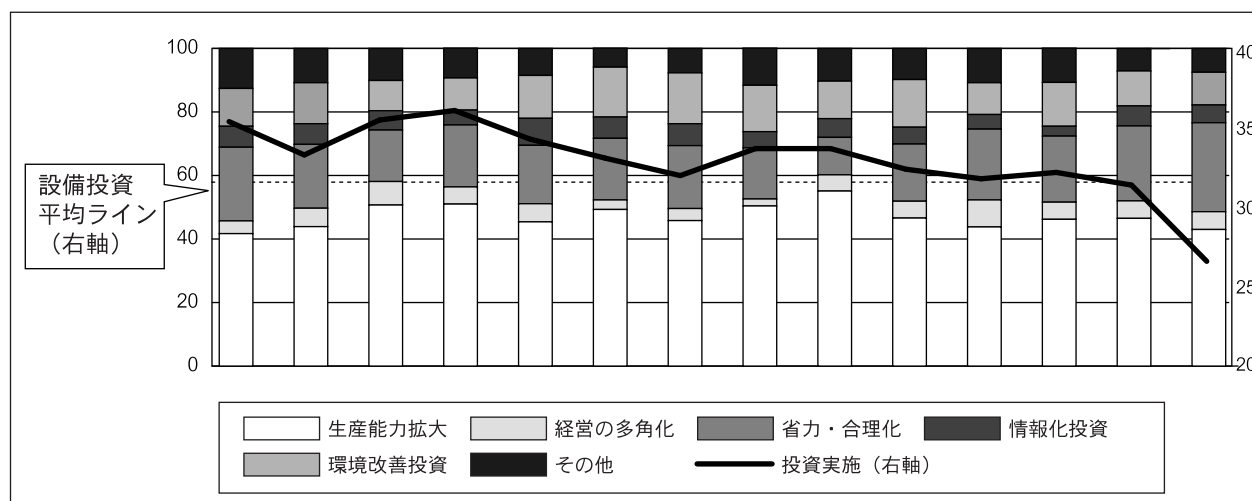
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
投資実施		35.4	33.3	35.5	36.1	34.3	33.1	32.0	33.7	33.7	32.4	31.8	32.2	31.4	26.6
投資せず		64.6	66.7	64.5	63.9	65.7	66.9	68.0	66.3	66.3	67.6	68.2	67.8	68.6	73.4

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	41.7	43.9	50.7	51.0	45.4	49.3	45.8	50.4	55.1	46.6	43.8	46.2	46.5	43.0
経営の多角化	4.0	5.8	7.4	5.4	5.7	3.0	3.8	2.2	5.1	5.3	8.5	5.4	5.5	5.6
省力・合理化	23.2	20.1	16.2	19.5	18.4	19.4	19.8	16.1	11.8	18.0	22.3	20.8	23.6	28.0
情報化投資	6.6	6.5	6.1	4.7	8.5	6.7	6.9	5.1	5.9	5.3	4.6	3.1	6.3	5.6
環境改善投資	11.9	12.9	9.5	10.1	13.5	15.7	16.0	14.6	11.8	15.0	10.0	13.8	11.0	10.3
その他	12.6	10.8	10.1	9.4	8.5	6.0	7.7	11.7	10.3	9.8	10.8	10.8	7.1	7.5



- (1) 19年4～6月に設備投資を実施した企業は全産業の32.2%であり、16期連続で30%を上回った。19年4～6月期実績を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は39.8%、非製造業は25.4%となっている。

19年4～6月期に設備投資を実施した企業の投資目的は、生産・販売能力拡大が前期比2.4ポイント増の46.2%となりトップ、次に省力・合理化が20.8%であった。

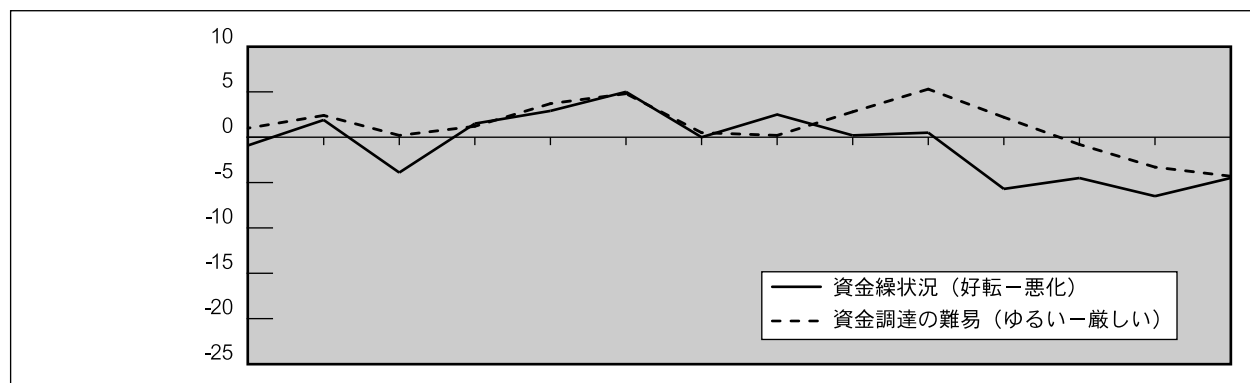
- (2) 19年7～9月期に設備投資を予定している企業は全体の31.4%で、引続き30%以上の企業が設備投資を予定している。設備投資の目的は今期と同じ、生産能力の拡大がトップとなっている。
- (3) 19年4～6月期において設備投資実施企業の割合が50%を超えたのは、医薬品製造・電子部品製造・金属製品製造であった。また、7～9月期見込でも、電子部品製造が50%以上の回答をしている。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
好 転	10.8	11.1	8.7	9.2	10.3	11.7	11.0	10.8	9.2	11.0	8.1	6.8	5.0	5.8
変 わ ら ず	77.4	79.8	78.7	83.0	82.4	81.6	77.9	80.9	81.9	78.4	78.1	82.0	83.5	84.0
悪 化	11.8	9.2	12.6	7.8	7.3	6.7	11.0	8.3	8.9	10.5	13.8	11.3	11.5	10.3
D . I .	-0.9	1.9	-3.9	1.5	2.9	5.0	0.0	2.5	0.2	0.5	-5.7	-4.5	-6.5	-4.5



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

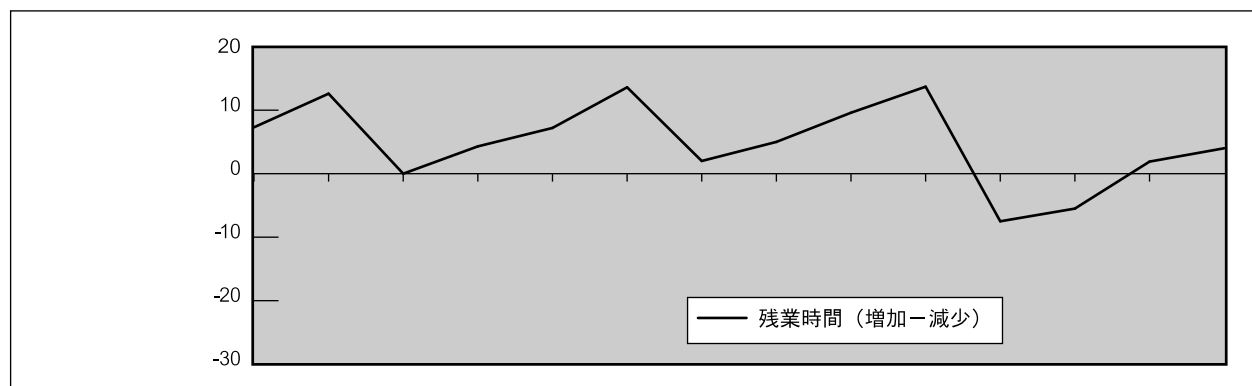
期別 種別	16 年		17 年				18 年				19 年			
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
ゆ る い	12.0	13.7	12.2	13.1	14.4	14.1	12.2	11.5	13.2	13.8	13.6	11.6	10.4	9.4
厳しくない	77.0	75.1	75.4	75.1	74.9	76.6	75.1	77.3	76.3	77.8	75.0	76.1	75.9	76.9
厳 し い	11.0	11.2	12.4	11.8	10.7	9.3	12.7	11.2	10.4	8.5	11.4	12.3	13.7	13.7
D . I .	1.0	2.4	-0.2	1.2	3.7	4.8	-0.5	0.2	2.8	5.3	2.2	-0.8	-3.3	-4.3

- 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は18年はプラスであったが、19年1～3月期からはマイナスとなり、悪化がうかがわれる。4～6月期は▲4.5とやや改善したが、マイナス傾向であり、先行きが懸念される調査結果となった。
- また、資金調達の難易D.I.「ゆるい－厳しい」においても、19年4～6月期▲0.8と3.0ポイント悪化しマイナスとなった。先行きについても、マイナスを予測している。
多くの企業が資金調達に厳しさを感じていない一方で、資金調達に厳しさを感じている企業が10%超と徐々に増加してきている。
業種では、今回の調査でも宿泊業が最も高く、次に土木業となっている。

VIII. 労務事情

残業時間

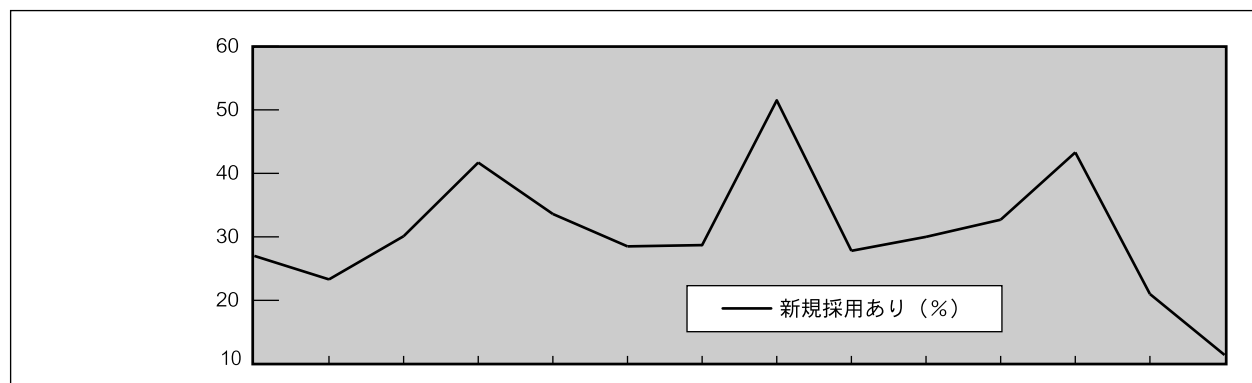
		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
増	加	19.1	25.4	20.2	19.6	19.1	24.6	19.5	19.4	17.2	22.5	15.6	14.0	12.0	11.5
横	ばい	69.1	61.7	59.7	65.0	69.1	64.3	63.1	66.2	75.3	68.7	61.3	66.6	77.8	81.1
減	少	11.8	12.8	20.2	15.3	11.8	11.0	17.4	14.4	7.5	8.8	23.1	19.5	10.2	7.5
D .	I .	7.3	12.6	0.0	4.3	7.2	13.6	2.0	5.0	9.6	13.7	-7.5	-5.5	1.9	4.0



- (1) 残業時間（増加－減少）D.I.19年1～3月期から、マイナスポイントとなり残業時間は減少している。しかし、7～9月期見込は1.9、10～12月期4.0と先行きは増加予測をしている。

新規採用実績(採用あり：％) ※常用・臨時合算

		(%)												見込	予測
種別	期別	16 年		17 年				18 年				19 年			
		7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月
全	産 業	27.0	23.3	30.0	44.8	33.1	28.9	32.0	48.2	26.9	29.9	30.6	42.5	19.1	10.8
(うち製造業)		28.4	25.6	29.7	48.2	32.5	29.3	35.5	44.5	25.9	29.9	28.1	41.6	17.1	10.2
(うち非製造業)		25.7	21.1	30.1	41.7	33.6	28.5	28.7	51.5	27.8	30.0	32.7	43.3	21.0	11.4

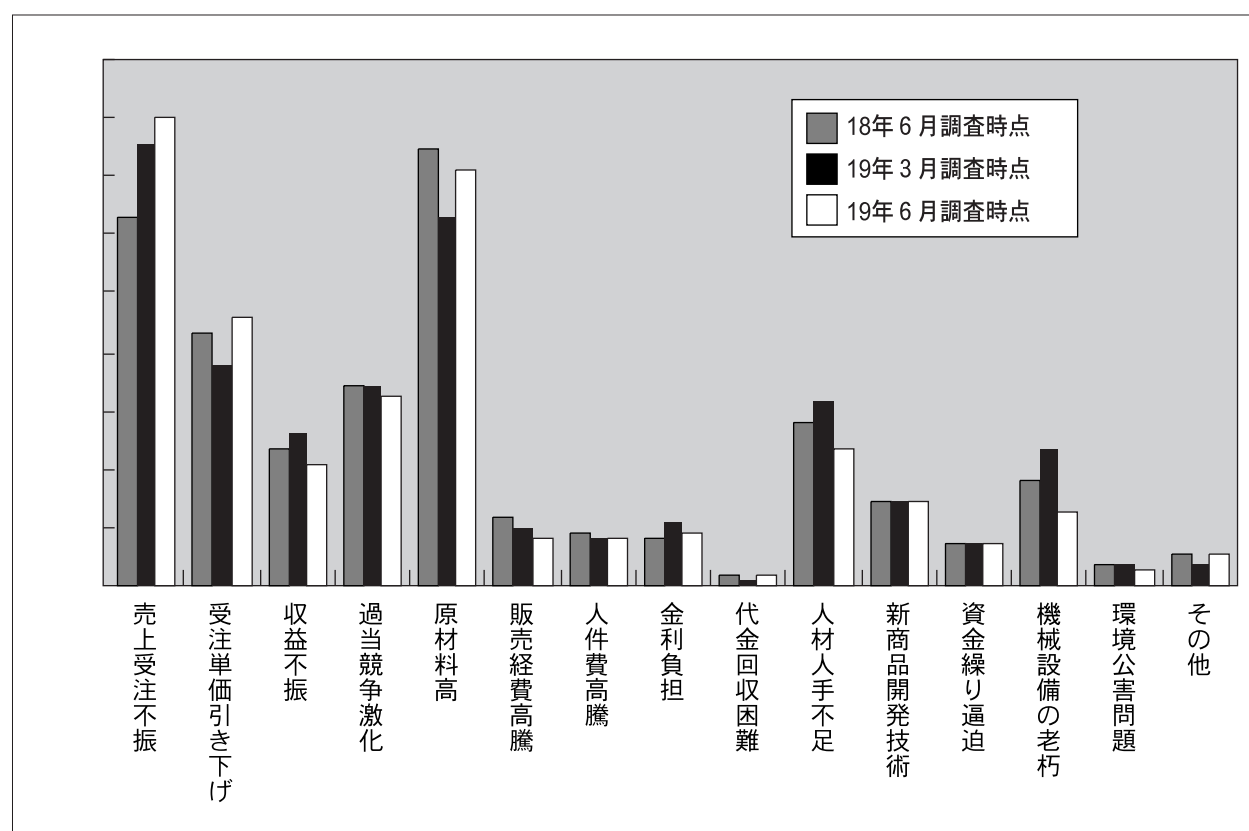


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業について4～6月期に42.5%の企業が採用を行っている。前年同期より5.7%減少している。

IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	18年6月 (前年)	19年3月 (前回)	19年6月 (今回)			前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	31.7	37.9	40.1	(36.6)	(43.2)	2.2
受注単価引き下げ	21.6	19.1	22.8	(20.4)	(24.9)	3.7
収益不振	11.8	13.2	10.4	(11.0)	(9.9)	-2.8
過当競争激化	17.2	16.9	16.1	(8.9)	(22.5)	-0.8
原材料高	37.3	31.5	35.4	(50.8)	(21.6)	3.9
販売経費高騰	5.7	4.9	4.2	(2.1)	(6.1)	-0.7
人件費高騰	4.7	3.9	4.2	(3.7)	(4.7)	0.3
金利負担	4.2	5.6	4.7	(3.7)	(5.6)	-0.9
代金回収困難	0.7	0.5	0.7	(0.0)	(1.4)	0.2
人材人手不足	14.0	15.6	11.9	(12.0)	(11.7)	-3.7
新商品開発技術	7.4	7.3	7.4	(12.6)	(2.8)	0.1
資金繰り逼迫	3.7	3.7	3.7	(1.0)	(6.1)	0.0
機械設備の老朽	9.1	11.5	6.4	(8.9)	(4.2)	-5.1
環境公害問題	1.7	1.7	1.2	(1.6)	(0.9)	-0.5
その他	2.7	1.7	2.7	(1.6)	(3.8)	1.0



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振40.1%(前期比+2.2ポイント)、②原材料高35.4%(前期比+3.9ポイント)、③受注単価引き下げ22.8%(前期比+3.7ポイント)の順となっている。
- (2) これを製造業と非製造業に分けてみると前回アンケート同様、製造業では原材料高50.8%(前期比+6.3ポイント)、非製造業では売上受注不振43.2%(前期比+0.5ポイント)が高いポイントとなっている。
- (3) 今回調査では原材料高・受注単価引下げが、前期比3.0ポイント以上増加した。製造業では原材料高が50.8%と半数の企業が問題点としてあげた。また、非製造業では受注単価引下げが5.2ポイント増加し24.9%となっている。